

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 おきな の里)

事業所番号	0671800167		
法人名	尾花沢福祉会		
事業所名	ハイマート福原グループホーム		
所在地	山形県尾花沢市野黒沢554-35		
自己評価作成日	令和 4年 11月 20 日	開設年月日	平成 15年 3月 6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ハイマート福原グループホームでは、これまで住んでいた地域の中で認知症であっても安心して暮らしていただけるように支援します。お一人ごとに異なる目標を達成できるように、側面からお手伝いしていきます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 5年 1月 11日	評価結果決定日	令和 5年 1月 26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して二十年になり、地域福祉の拠点として常に利用者の立場に立ってサービスを提供し、地域交流にも積極的に取り組んで認知症ケアの啓発に努めています。近くオミクロン株の予防接種も予定しており、感染症対策を強化しながら家族等との窓越しの面会や外出支援・レクリエーションなど出来る限り要望に添えるようにしています。一人ひとりの生活歴や個性・価値観を尊重し、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援によって利用者も安心して暮らすことができ、管理者と職員は心を込めて支援しており、利用者・家族等から信頼されている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 己 外 部	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所で理念を掲示し、管理者、職員間で共有できるようにしている。	理念の掲示と毎月行う職員会議の資料に理念を載せて意識付けを図っている。開設時の理念を継承し、安心と信頼に向けた取り組みと職員の心のこもった支援が利用者の笑顔に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	R4年度は久しぶりに地域のボランティア団体と共同で畑に野菜・花の苗を植えることが出来ました。久しぶりに地域の方と交流することになり、利用者も楽しんで活動に参加することが出来ました。	新型コロナウイルスが感染拡大する中で、唯一花植えをすることが出来たがほとんどの活動が制限されている。収束して再び学校の運動会や祭りなどの地域行事に参加したり、日常的に買い物や散歩に出かけて交流できることを待ち望んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学校及び地域公民館などの要請があれば施設職員が認知症の講演会などを実施していましたが、新型コロナウイルスの感染予防の観点から今年度も実施できませんでした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	R4年度は2回中1回は対面で、残りの1回は書面を送付する形で実施しています。11/11のそば祭りの際はユニット内に委員の方に入っただき、久しぶりの交流を図りました。飲食に関しては新型コロナウイルス感染予防のため控えることとしました。	定期的に運営推進会議を開いているが、新型コロナウイルスの感染状況によっては関係者に資料を送付して会議に代えている。活動内容等を報告し忌憚のない要望や助言を得て窓越しの面会なども取り入れ、サービスの質向上に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	メールや電話などで災害対策状況や感染症対策などじょうほうの交換を日頃より行っています。	運営推進会議実施報告書を提出し、利用状況や活動内容等について理解を得ている。市担当者に事業所の実情やケアサービスの取組みを伝えて課題解決に取り組むなど、事業所の積極的な姿勢と市担当者の誠実な対応により協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	施設内研修において、身体拘束の研修会を実施し、職員への教育と、身体拘束への理解を促している。	必須研修として身体拘束について学び、職員は身体拘束の具体的な行為と身体拘束がもたらす弊害について理解し、不適切な行為がないように注意している。身体拘束委員会を定期的に開催し、事案の有無と話し合った内容について周知を図り、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修において、高齢者虐待の研修会を実施しました。映像等も活用しながら、職員理解が進むように工夫をしました。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	財産管理が難しく、社会福祉協議会に財産管理を委託している入居者がおり、その手続きに職員が同席している。研修会への参加などは今年度行えていません。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の申し込み時や入所時に施設長、管理者より説明を行い、不明な点などを確認し、その質問に答えるようにしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。新型コロナウイルス感染予防の観点から面会制限などがあり、なかなか家族と交流する機会が少ないですが、面会時や電話連絡などを行い、その際の意見を参考にさせていただいている。	担当制をとって利用者より深く関わり、思いや意向を把握している。家族側に生活の様子や身の回りで必要なものを伝え、意見や要望を伺って反映させるようにしている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議、ユニット会議を実施し、職員間の情報共有や意見を把握し、施設運営に反映できるようにしている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な面談を実施し、個々の職員の勤務状況や今後の展望などを把握し、話を聞くようにしている。			
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人教育担当者という指導役を設定し、現場においてその職員を中心にOJTを実施している。4月～11月まで月1回を基準に法人内研修を実施し、メンタルフォローや福祉職として必要な知識、技術指導をしている。	法人内研修と併せて内部研修計画を作り、法令順守や認知症・身体拘束など多岐にわたって実施している。また、県や市主催の講習会等には職域や経験・習熟度に合わせて奨励し、計画的に人材育成に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	最北地区GH連絡協議会に参加し、情報交換をしている。法人内事業所より理学療法士や看護師に来ていただき、相談や助言をもらっている。	グループホーム連絡協議会を通じて他事業所の取り組みを学び、サービスの質向上に繋げている。オンラインで内部研修の進め方や食事に関すること・コロナ禍での外出支援等について情報交換を行い業務に活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に困っていることや在宅での現状などを確認させていただき、話を聞く機会を設けている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	GH利用申し込み時や実態調査、契約時などで直接会話する機会を作り、対応している。電話での相談にも随時対応している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族との話し合いにおいて、支援が必要なポイントを見極めて、必要に応じたサービスなどの情報提供をしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を中心とした作業を利用者の能力に合わせてお願いするようにしている。職業歴なども参考に月行事で主役になれるような取り組みも実践している。元料理人の利用者に調理の下ごしらえをお願いしたりしている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の体調を確認させていただきながら、通院や美容院などの外出などに協力していただいている。その際に近況をお伝えしたり、お話しすることで信頼関係の維持・向上に努めている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響はあるものの、窓越し面会と電話を使用した交流を再開させている。お嫁さんに散髪してもらうのが習慣になっている方に関しては、ご家族の協力も得て実践することが出来た。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の小さな変化を観察し、毎日のミーティングやユニット会議で検討を重ねている。共有スペースの配置変更や利用者の座席変更などを行い、利用者が不安なく過ごせる人間関係、環境作りをしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、いつでも連絡が取りあえるように説明を行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の何気ないコミュニケーションの中でご本人の希望されることを把握し、実践できることは可能な限り早く実践するようにしている。	「床屋に行きたい」「正月を自宅で過ごしたい」などいろいろな要望がある中で、できる限り応えるように努めているが、コロナ禍で要望に添えないものもある。把握が困難な場合でも毎日の生活を通して表情などから思いを推し測り、本人がより良く過ごすことが出来るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接などで確認させていただいている。入居時にもご家族に話を伺い、今までの生活やご本人が大事にしていることが継続出来るように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居後の変化に注目し、必要な支援や環境調整などを行い、利用者の現状にあった支援を提供出来るように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議を開催し、利用者の状況の把握に努め、その都度検討をしている。	ユニット会議で担当者から生活の様子や心身の状態変化を報告してもらい、本人・家族等の意見や医師の所見も含めて課題を分析している。出来ることを維持してもらい、必要とする支援を盛り込んで利用者を主体にした具体的な介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活日誌に記入することで情報共有を図っている。重要なことは連絡帳も活用し、周知できるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域のボランティア団体と共同で畑に野菜・花の苗を植えることが出来ました。久しぶりに地域の方と交流することになり、利用者も楽しんで活動に参加することが出来ました。</p>			
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご本人やご家族の希望に合わせて受診や往診などの必要な医療を受けている。定期的に主治医の診察を受けており、利用者の状態に変化が合った際は連絡し、相談できるようにしている。</p>	<p>かかりつけ医への受診は、基本的に家族等の付き添いとしている。利用者の健康状態を記載した情報提供書を協力医へ事前にファクシミリで送付し、往診を受けられるようにしている。受診結果は個人毎に記録し職員間で共有して、薬などの変更があった場合は家族等へ報告している。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>医療機関受診時に日常生活での変化を報告し、利用者が説明できない部分を補い、適切な医療が受けられるように支援している。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入退院時は相談員、看護師などと連絡を取り、情報交換をしている。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重症化や終末期については、ご家族と十分に話し合い、状態に変化がある際は主治医に連絡し、指示を仰ぐようにしている。</p>	<p>重度化や終末期について入居時に看取りはしていないことを本人・家族等に説明している。状態変化があった場合は主治医の指示のもとで本人・家族等に説明し理解をもらい、他施設や医療機関への移行を支援している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修において研修会を実施して、職員の知識向上につなげている。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回実施している。うち1回は隣接する老健と地域の方の協力を得て実施している。昨年からの課題である夜間想定とした早朝の避難訓練を実施している。非常連絡網を定期的に訓練している。	避難訓練を隣接する同法人の介護老人保健施設と合同で実施し、人数や怪我・体調確認などを行い安全確保に努めている。また夜間帯の訓練を通して、職員の非常召集や介護老人保健施設との協力連携体制の強化を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修において、プライバシー保護と個人情報の取り扱いについて研修会を実施している。	認知症・プライバシー保護・個人情報保護等の内部研修を行って、利用者の人格を尊重し利用者本位に支援をしている。また人生の先輩として敬意、言葉かけやプライバシーにも配慮しながら介護に努めている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のちょっとしたことでも利用者の自己選択を促している。利用者の意思、希望が叶うように働きかけている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	GHの日課はあるものの、利用者の希望を尊重し、臨機応変に対応できるようにしている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の能力に合わせて、その人らしい身だしなみができるようにしている。化粧水や乳液などの持ち込みもあるが、間違えて使用しないようにシールを貼ったりして自分で出来るように支援している。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の家事能力をアセスメントし、個々の能力や意欲に合わせて台所仕事を促している。好きな食べ物や嫌いな食べ物を把握し、職員で共有出来るように表にまとめている。	正月料理や花見だんご・ちらし寿司などを出したり、誕生日会には本人の好きな物を作って楽しい食事に行っている。またイベント毎に職員が楽しい雰囲気作りと盛り上げを行い、利用者の笑顔に繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を観察し、1人1人の状況を確認できるようにしている。水分に関しては1回量を増やすのではなく、提供回数を増やしたり、好きな飲み物を把握し、表にまとめている。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。利用者の状態に応じて、必要な声掛けや見守りなどの支援をしている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を24時間標記の物を使用し、排泄パターンを把握しやすいようにしている。	排泄チェック表を活用して定時のトイレ誘導を行い、自立排泄を維持している。誘導時は周囲に配慮し耳元で小声で話すようにしたり、トイレのドアやカーテンを閉めて見守り羞恥心にも配慮している。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体を動かすレクリエーションを提供し、腸の動きが活発になるようにしている。牛乳や水分の提供回数を増やすなどの取り組みを実践している。対策を講じて、なお便秘傾向の場合は主治医に相談をして、下剤等で排便コントロールをしている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴剤を使用して、リラックスできる入浴を提供している。利用者の性格やADLに合わせて、入浴中のコミュニケーションや少し離れて見守りをするなど対応を変えて実践し、プライバシーに配慮している。	入浴は週2回を目標にしているが、利用者の体調に合わせて翌日に調整している。脱衣室や浴室をパネルヒーターなどで温めてヒートショック防止を図り、手摺りの設置や滑り止めマットを敷いて転倒予防など安全確保に努めている。入浴中は利用者の性格や思いに合わせて家族のことや昔の楽しいことなどを話題にしている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調を観察し、必要な時には午睡を促して対応している。休まれる際は室温や湿度、明るさなどの調整を行い、ゆっくり休めよう支援している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	生活記録簿に現在内服している薬が分かるように処方箋を挟み、職員が把握しやすいようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の職歴や趣味、「失敗しない」という出来ることを促し、日常生活で活躍できるようにしている。食後の洗い物が役割となり、自発的に仕事をこなしてくれる利用者もおられる。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの感染状況を見極めながら、外出を行っている。買い物好きな利用者を誘い、地域のお菓子屋に行ったり、利用者の生まれ故郷にドライブに行ったりしている。	人の少ない時間帯を考慮して、散歩や買い物などに出かけている。また畑に行って野菜の収穫をしたり、ゴミ袋をゴミステーションへもって行くなど生活の一部となっている。ドライブにも出かけて街並みや風景を見て季節を感じてもらえるよう支援している。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される利用者には所持していただいている。その際にご家族にもお話をさせていただいている。また、使用した際には都度連絡するようにしている。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	新型コロナウイルスの影響で面会がなかなか出来ないことで電話でのやり取りが多くなっている。落ち着いて会話できるように個室へ案内したり、配慮している。手紙に関しても希望があれば、随時対応できる体制を整えている。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員と利用者が協力し、季節に合う作品作りなどを行っている。玄関には行事の写真を掲示し、ご家族に気軽に見ていただけるようにしている。見当識障害により場所の認識が出来ない方も多いため場所の表札や自室の表札を掲示して、わかりやすい環境作りをしている。	ホールの日差しの強いところには、窓ガラスにフィルムを貼って遮光し、過ごし易くして皆が集まるようになっている。また花や観葉植物を置き、利用者が水かけや手入れをして楽しみ、季節の花や行事の時の写真を飾り来訪者にも観てもらえるようにしている。	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースに関しては利用者の相性や関係性を考慮し、落ち着ける環境を提供できるように工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自室の環境に関しては、テレビや絨毯、昔から使用していた馴染みのあるものを持ち込んでいただき、利用者が安心できるように配慮している。</p>	<p>ベッドやタンスを備え付け、利用者の使い慣れたものを持ち込み安心して過ごせるようにしている。朝食後にできる方には職員と一緒に掃除し綺麗にしてもらい、居心地よく整えている。</p>	
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>できること、わかることは安全に行えるように環境整備に取り組んでいる。</p>	/	/